

6.3 教育方法のあり方

進捗状況報告

・少人数教育を充実させるために、1年生の基礎演習の通年化（現行は1 Semester）と、2年生における専門的演習（1 Semester）の導入を検討している。
・「社会調査実習」については、すでに3年の実績があり、一定の効果をあげている。
・ビジュアル教材の利用に対応するべく、パソコン・プロジェクター等の機器充実を図ってきたが、必ずしもシステムティックに導入されていない。さらなる機器の充実は、予算面を含めて今後の課題である。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

「学部独自に作成したビジュアル・テキスト」としては、1999年以来、社会福祉学科作成の「コミュニケーションラボ用DVD」が使用されてきた。ただし、福祉制度の目まぐるしい変化に対応してテキストをアップ・トゥ・デートに更新していくには、一層の設備面の充実が求められる。その点に配慮しつつ、人間福祉学部においても「ビジュアル・テキストの作成・活用」の試みは継続していく。なお、マルチメディアとは異なるが、社会学部で独自に作成したビジュアル・テキストとしては、『みればみるほどIMADOKI マンガ・早わかり社会学』があり、ゼミや講義において社会学教育のために活用されている。

学内第三者評価

少人数教育及び「社会調査実習」の設置などを目標として、着実な努力が行われている。ただ、マルチメディア教育の推進に関しては、2003年度に設定した目標や2005年度の「改善の具体的方策」に記された「ビジュアル・テキストの作成・活用」について進捗状況の記述がなく、ハードを含めてITを活用した「教育の情報化」について一層の進展が望まれる。

なお、特別委員からは以下の意見があった。
・2005年度に掲げた「改善の具体的方策」の一部については、必ずしも十分に実施されていないように見受けられる。